

②介護コミュニケーション班

(1) ちゅらさき分教室における「介護コミュニケーション班」の捉え方

今後の超高齢化社会で多くの人材が求められる「介護職」、慢性的な保育士不足解消に応える「保育助手」、沖縄県の主力産業である観光業で求められる「ホテル業務職」といずれの職も社会的ニーズが高い職種と言える。特に、軽度の知的障害の生徒の中には、「人と接することが好きな生徒」「心根の優しい生徒」「素直な心の生徒」「世話をしたり頼られることが好きな生徒」など、介護職に向いている生徒が少なくなく、今後、介護施設などにおいて労働力として大いに貢献できる人材である。

しかし、生徒の特徴でもある未知、未経験のことに対する「大きな不安感、拒否感」が介護現場での実習や就労にあたり課題であると考え。そのため、介護の仕事内容を学び、介護の技能を習得することは、円滑な実習やその後の就労においては不可欠であり、介護に関する様々な仕事内容を知り、可能な限り体験、学習することが重要だと考える。

また、介護の学習に付帯し学習する内容は、生徒のニーズの高い保育職やホテル業務職においても重要な知識、技能と重なることも多く、「介護・コミュニケーション班」は、社会的なニーズ、生徒のニーズに応じた知識・技能の習得を目的とした職業班であると捉えている。

(2) 授業実践計画

通年を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤労の意義 ・ 情報機器の活用 ・ 特別講師による講義、実演（約月1回：計12回） ・ 福祉施設見学、交流・勤労の意義
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ①仕事を知る「介護」 ②高齢者、障害者の心と体、生活の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の動き（立位、座位、歩行、昇降など）や仕組み ・ バリアフリー ③介護技術の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボディーワークス ・ 車いすの名称、車いすのメンテナンス、 ・ 移動支援方法（ドア、坂、段差、グレーチング） ・ 移乗支援方法（イス、ベット）
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ①仕事を知る「保育助手」「ホテル客室清掃」「介護施設の一日の仕事内容」 ②高齢者、障害者の心と体、生活の理解（バイタルサイン、嚥下機能、褥瘡） ③介護技術の基本（衣類の脱着、嚥下、食形態、バイタルチェック、血圧計や、サーチュレーションの使用、） ④コミュニケーション

	<ul style="list-style-type: none"> ・しまくとぅば、手話、接客で使用する英語 ⑤高齢者、障害主別の特徴と気持ち <ul style="list-style-type: none"> ・認知症について ⑥レクレーション
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ①高齢者、障害者の心と体、生活の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症を知る ・パラリンピック ②介護技術の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・ベットメイク ③感染症の理解と予防策 <ul style="list-style-type: none"> ・水虫 ・手湯、足湯 ④リハビリと福祉用具（補助具） ⑤高齢者、障害主別の特徴と気持ち <ul style="list-style-type: none"> ・認知症について ⑥救急救命 ⑦介護技術検定

（3）授業を行う際のポイント

①事実を伝えること

介護職は一般的に精神的にも肉体的にもきつい仕事と言われているが、やりがいが高く、離職率も改善されていると聞く。しかし、利用者の「身辺処理」や「死への直面」など、生徒が実際、就労し、長く働く上で大きなハードルとなることは多いと考える。

映像など生徒がイメージしやすい手段を取り入れながら、介護職の中で想定される「辛い」と思われることも、ありのままに伝えること、そして、これからの超高齢化社会の中で、とても必要とされている仕事であることをしっかり伝えることを心掛ける。

②常にコミュニケーション力を図る指導を行うこと

介護、保育、ホテルのいずれも「人」を相手にする仕事であり、相手の求めていることに応える仕事である。特に「質問する」「確認する」際の言葉かけや「傾聴」の姿勢、表情や行動などを読み取る非言語コミュニケーションなどが求められる。

しかし、ほとんどの生徒がコミュニケーションを苦手とする。そのため、絶えず、場に応じた言動、言葉使いなどを指導し、生徒のコミュニケーション力の向上を図る。

③体験的な学習を通し、基礎的、基本的な知識と技能を習得するよう促す。

ア．実践的な学習の充実

現場ですぐに活かせるように、 possible の限り、仕事で実際に使用する道具、機器を用い、介護の基礎的な技術の習得を図る。

イ・専門家による講座

介護職、保育、ホテル業の従事者を講師に迎え、専門的な技術・技能について知る。

ウ・高齢者施設との連携

近隣の高齢者施設と定期的に交流会をもち、高齢者と直に触れあうことで理解を促しつつ、習得した技術・技能のフィードバックを行う。

(4) 授業実践



①教育センター内のバリアフリーマップを作成



②車いすのメンテナンス



④車いすでの移動介助練習

(坂、段差などの注意事項を確認)



⑤車いすからイスへ

イスから車いすへの移乗練習



⑥バイタルについて知り、互いにバイタルチェックを行う。
血圧計、サーチュレーションの使い方を学ぶ。



⑦衣服の脱着支援（片麻痺時の脱着体験、寝たきりの方）



⑧嚥下機能について学び
「とろみ剤」の利用と様々な食形態を知る。



⑨褥瘡予防と
ベットメイクの
方法を知る



⑩美里分教室との合同授業



⑪ボランティア（九州ろう学校体育大会）

簡単な手話を学び、自分から関わる生徒



⑫嘉手納高校福祉系列と合同介護演習と
交流会（ボッチャ）

⑬琉球リハビリテーション学院（専門学校）の見学

（5）特別授業の充実

今年度、高齢者介護施設「いきがいもまちクリエーション」を中心に連携、協力をを行い、介護士、理学療法士、社会福祉士、看護師など多くの講師を迎え、年間10回の講義を受け、介護の専門的・実践的な知識、技能について学ぶことができた。

以下、単元名と授業目標、内容を示す。

(5) 特別授業の充実

今年度、高齢者介護施設「いきがいもまちクリエーション」を中心に連携、協力を行い、介護士、理学療法士、社会福祉士、看護師など多くの講師を迎え、年間10回の講義を受け、介護の専門的・実践的な知識、技能について学ぶことができた。

以下、単元名と授業目標、内容を示す。

●「いきがいのまちクリエーション」

(所長：田村氏「作業療法士」、コーディネーター：知念氏「作業療法士」 他)

- ① 「介護に大切なこと」→相手を知ること、コミュニケーションの大切さを知る。
- ② 「介護に大切なこと」→相手を知ること、「いきがい」を大切にする。
- ② 「いい介護、適切な介護とは」→介護のゲームを通してどのような介護が良いかを知る。
- ③ 「介護施設について」→一日の流れについて、レクリエーション
- ④ 「高齢者医療について」→嚥下、バイタル、医療行為について
- ⑤ 「地域支援・在宅支援について」→高齢化社会について知る。
- ⑥ 「先輩の話を知ろう」→将来の目指す姿として高等特別支援学校卒業生の介護士「仲宗根さん」の話を聞く。



●侍学園 (校長：坂本氏「作業療法士」)

- ⑦ 「福祉とは」→より良く生きる助け合い
- ⑧ 「介護に大切なこと」→コミュニケーションの大切さを知る。



●となりのかいご屋さん

- (代表 中松氏「介護講師」)
- ⑨基本的な介護技術の習得を図る。



- ⑩琉球リハビリテーション学院→リハビリ、自助具を知る。ソックスエイド、介助箸作り



(6) 成果

- ・「介護職」、「保育助手」、「ホテル業務職」などを含め「働く」こと、「働くために必要な力」は何か。自分の課題は何かを意識するなど就労意識の向上がみられた。
- ・介護の学習を通して、ケガをしている方に車いすを探し対応する、危険を予期し車いすを準備するなど、「相手のために自分のできること」「助け合う」ことに自ら進んで行動する生徒がでてくるなど主体性の向上が図られた。
- ・自己紹介、他己紹介が苦手な生徒たちが、「相手を知る」「自分を知る」を意識させること、自己紹介の機会を多く設定したことで堂々と自己紹介、他己紹介のできる生徒が増えるなどコミュニケーション力の向上が見られた。
- ・介護技術の学びを積むことで、介護技術の向上を目指し取り組む生徒が見られた。
- ・今年度、2名の生徒が介護の現場に就労する。生徒から「センター分教室で介護の学習をしていなかったら介護には進まなかった。新しい夢を見つけられて良かった。」との感想があった。
- ・今年度、ボランティアとして、多くの外部の専門家が講義をしてくださった。次年度以降も引き続き、連携、協力を依頼していきたい。

(7) 課題

- ・学習の振り返り、自己成長が確認する回数が少なかった。自己の変化などを確認する機会を定期的に設定し、学習を振り返り、自らの成長を確認できるよう促していく必要がある。
- ・予想される職場で使用する情報機器の活用、学習が十分でなかった。今後、各職場で使用する情報機器の情報を集め、学習改善に努める必要がある。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止により近隣の介護施設、高齢者施設などとの交流が難しかった。次年度、隣接する高齢者施設と定期的な交流を予定してる。感染対策を万全に高齢者と直に触れあう機会を定期的に計画していきたい。
- ・「介護職」の学習内容が、主な授業の内容となった。保育、ホテル業務に関する仕事の学習に関しても深める必要がある。